

平成19年度 幸こども文化センターの管理運営に対する評価について

1 指定管理者

(1) 指定管理者	財団法人かわさき市民活動センター
(2) 指定期間	平成18年4月1日～平成23年3月31日
(3) 業務の範囲	幸こども文化センターの管理運営に関すること 戸手小学校・西御幸小学校・御幸小学校わくわくプラザの管理運営に関すること

2 管理運営（事業執行）に対する評価

評価項目	平成19年度管理運営の状況	評価及び指導
(1) 管理業務の実施状況		
施設の運営に関する職員体制に関すること	①人的能力の充実を図るため職員の児童厚生員資格取得を進めると共に、新規採用職員は業務に関する資格取得者から選考しました。 ②本部の職員体制については管理係長1名、区運営担当主査を3名配置して各館との連携強化を図りました。	職員の業務に関する資格の取得を進めたこと、また本部職員の充実によりかわさき市民活動センターが管理運営している他のこども文化センターとの連携を図ったことは評価できる。職員の研修については、スケールメリットを生かし、大規模な研修を実施し、また、指定管理施設の各区、施設単位での研修も実施することにより職員のスキルアップを図っていたことは評価できる。今後もこども文化センター及びわくわくプラザの職員配置が適切に行われるよう努めること。
施設の管理運営に対するニーズ等の把握に関すること	一般来館者に対し意見聴取提案箱「ハートボックス」を設置すると共に、利用者にアンケートを実施した。こども会議でこどもの意見や要望を吸い上げ、行事や遊びの提供の仕方等に反映させた。また、貸館利用団体には運営協議会で要望を聴いた。	継続的に利用者や地域住民からの意見・要望等を聞きニーズの把握に努めていたことは評価できる。提案箱の活用等により積極的にニーズの把握に努めていたことは評価できる。
サービスの提供に関すること	誰もが参加しやすく楽しい行事づくりをめざした。通常の行事の充実と共に、今年度の目玉の一つとして、夏季の午後から半日をかけ、カレー作りとレクリエーションを含めた小学生対象職員総出の行事を開催。グループごとの活動や、ペンライトとイルミネーションを使ったキャンプファイヤーの疑似体験をした。運営協議会の団体へこども文化センター事業への参加を促し、各団体の専門性を生かした行事を開催した。	運営協議会やこども会議等を実施しサービスの提供を行っていた。また、ホームページの内容をより充実させていたことは評価できる。障害児については、障害児相談員を雇用し、必要に応じ職員の相談を行い障害児の対応を充実させていたことは評価できる。
事業の実施に関すること	幼児対象行事「ちびっこぶんぶん」を月一回のペースで開催。初めての来館へのきっかけとして機能し、次回来館へもつながっている。親子遊戯室の快適化に向け、よりいっそうの部屋の整備と授乳スペースの確保をおこなった。美術の専門学校生のボランティア、音楽大学生のボランティアを活用し、専門性を生かした行事を開催した。	運営協議会等との連携により各団体の専門性を生かした行事を実施したことは評価できる。また美術専門学校や音楽大学の学生ボランティアを活用した行事を行っていた。今後も、ボランティアの活用を努めること。

個人情報の取扱に関すること	財団法人かわさき市民活動センター個人情報保護方針に基づき、適正な取り扱いをしている。	個人情報の取扱については、概ね問題なく処理されている。
施設の安全管理に関すること	ヒヤリハットシートを作成しスタッフで協議し安全点検シート施設点検表を作成した。それに基づき月一回施設点検を行う。日常的に破損やくぎの飛び出しがないか調査し、補修の必要な部分については迅速な対応を心がけた。集会室、親子遊戯室の部屋の角について、コーナーガードの取り付けをした。卓球台のゆがみで安全ロックがかからなくなったものについてこどもへの貸出を中止した。	毎日の清掃や始業時の点検を行い、安全性に努めている。
(2) 利用状況		
①こども文化センター	<p>延べ利用者数 24,884人  延べ団体利用数 2,792団体  (主な行事等)  今月のぬりえ  プラザ祭り</p> <p>(特色のある行事)  大型紙芝居</p>	地域の状況に合わせた特色ある行事の実施している。また、地域との連携を図り行事を実施していることは評価できる。行事の実施に当たっては、具体的な数値目標等を設定し客観的な達成状況が分かるように心がけること。
②わくわくプラザ	<p>1 戸手小学校わくわくプラザ  登録者数 280人  延べ利用者数 16,982人  (主な行事等)  けん玉道場  1年生歓迎会</p> <p>(特色のある行事)  バルーンアート</p> <p>2 西御幸小学校わくわくプラザ  登録者数 138人  延べ利用者数 10,479人  (主な行事等)  ぬりえ大会  スタンプラリー</p> <p>(特色のある行事)  音楽会(ゆらっくす)</p> <p>3 御幸小学校わくわくプラザ  登録者数 193人  延べ利用者数 11,295人  (主な行事等)  ぬりえ大会  お楽しみ会</p> <p>(特色のある行事)  サイダー作り</p>	行事については、順調に実施されている。利用状況は具体的な数値目標等を設定し客観的な達成状況が分かるように心がけること。

評価項目	平成19年度管理運営の状況	評価及び指導																																	
(3) 収支状況																																			
① 収支状況	<p style="text-align: right;">(単位：円)</p> <table> <tr> <td>収入</td> <td>指定管理料</td> <td>59,706,521</td> </tr> <tr> <td></td> <td>合計</td> <td>59,706,521</td> </tr> <tr> <td>支出</td> <td>人件費</td> <td>50,421,877</td> </tr> <tr> <td></td> <td>管理費</td> <td>3,612,909</td> </tr> <tr> <td></td> <td>事務経費</td> <td>2,583,796</td> </tr> <tr> <td></td> <td>その他経費</td> <td>1,436,042</td> </tr> <tr> <td></td> <td>青少年事業資産取得支出</td> <td>909,090</td> </tr> <tr> <td></td> <td>減価償却引当資産取得支出</td> <td>40,492</td> </tr> <tr> <td></td> <td>第1回精算に伴う返納金</td> <td>636,363</td> </tr> <tr> <td></td> <td>合計</td> <td>59,640,569</td> </tr> <tr> <td></td> <td>差引</td> <td>65,952</td> </tr> </table>	収入	指定管理料	59,706,521		合計	59,706,521	支出	人件費	50,421,877		管理費	3,612,909		事務経費	2,583,796		その他経費	1,436,042		青少年事業資産取得支出	909,090		減価償却引当資産取得支出	40,492		第1回精算に伴う返納金	636,363		合計	59,640,569		差引	65,952	事業実施後指定管理料の残額を戻入しており指定管理料の範囲内で事業の実施を行っている。今後は収支のバランスを考慮しつつ、事業をより充実させるため適切な経費の執行を図ること。
収入	指定管理料	59,706,521																																	
	合計	59,706,521																																	
支出	人件費	50,421,877																																	
	管理費	3,612,909																																	
	事務経費	2,583,796																																	
	その他経費	1,436,042																																	
	青少年事業資産取得支出	909,090																																	
	減価償却引当資産取得支出	40,492																																	
	第1回精算に伴う返納金	636,363																																	
	合計	59,640,569																																	
	差引	65,952																																	

### 3 管理運営（事業執行）に対する全体的な評価

指定管理以前から委託事業者として子ども文化センター及びわくわくプラザの管理運営に携わっていた経験を生かし、また、全市58施設の内55施設の指定管理者としてのスケールメリットを生かし、施設ごとに偏りの無いサービスの提供を行っており、区ごとの子ども文化センター合同行事の実施や全市規模の行事の実施を行っていた。行事の実施についても施設ごとに特色ある行事を実施していることは評価できる。また、各施設を統括する本部職員を配置することにより、他の子ども文化センターと連携を図り管理運営を行っていたことは評価できる。

55施設の指定管理者としてのスケールメリットを生かし、安定した経営を行っていたことは評価できる。

### 4 来年度の管理運営（事業執行）に対する指導事項等

次年度も引き続き55施設の指定管理者として安定した経営、他施設と連携した行事等スケールメリットを生かした管理運営を実施すること。事業の実施に当たっては運営協議会を始め地域と連携し、より一層地域の状況に合わせた特色ある行事の実施等を行うこと、また目標利用者数を設定する等具体的な数値目標を設定し客観的に事業の達成状況が分かるようにすること。